

転勤

人生が大きく変わった

ある日突然、見知らぬ地への転勤を言い渡されたらどうするか。場合によっては家族と離れ離れの単身赴任もありうる。慣れ親しんだ生活環境が大きく変わることにちゅうちょする人は多いだろう。しかし、転勤をきっかけに新たな人生が開かれたと話す人もいる。福岡市出身の権藤貴代子さん(53)は、東京転勤を機に、趣味だった「花」を商品開発につなげた。二十一日からは初の個展を福岡市内で開く。当時、転勤に踏み切らせたものは何だったのか。

(川口安子)

権藤貴代子さん

21日から
福岡市で個展

医療関連会社の福岡市 れる一カ月の営業所に勤めていた十一年前、四十二歳のときに突然東京転勤を言い渡された。権藤さんの職種

は事務で、転勤は想定外だった。「関係法律が変わり、事務に必要な資格が変わったんです」。転勤か、退職か。決断を迫られ頭が真っ白になったが、気付くとその場で転勤を承諾していた。権藤さんは「それまではどこかに行くなんて考えたこともなかった」と振り返る。転勤を打診されたわけではない。二十三歳



皿とボウルでドライフラワーを密封した独自の作品「クリスローゼ」を前にした権藤貴代子さん

◇権藤さんの個展は、21日—25日、福岡市中央区の「galerie de h (カフェドアッシュ併設ギャラリー)」で開かれる。入場無料。HP=<http://www.hana801.jp/>。

ドライフラワー 才能開花

務という仕事にやりがいを感じることが、二十一年間内容が変わらず、形は残らない。独身で子どももない。「今思えば、マンションを買ったのも自分を安心させたかったからだと思う」

そんな中、突然の転勤話に気持ちに大きな波紋を広げた。不安はあったが、自力では捨てきれない花を見つけた。権藤さんは今、思う。「たぶん、福岡にもポトルフラワーの教室があったらいいな」と思う。でも、福岡にいた

のころ生け花教室に通い始めた花の魅力を知った。「自分を太陽だと思って花が一番喜ぶ顔を探しながら」。師の教えに夢中になり、華道の免許を取った。仕事が終わった後に市のセンターで教えるようになった。東京に転居した権藤さんは、仕事の傍ら新たにドライフラワーの一種、ポトルフラワー作りを学び始めた。それがきっかけとなり、二〇〇三年にはその技術を応用して独自の商品を開発し、副業として通信販売なども始めた。

「でもね、形に残らないのよ」

せっかく美しく生けた花も、時がたてば枯れてゆく。それは生活すべてにおいて同じだった。事

「四十歳になると人生の先が見えてくるのよ。あー、私の人生こんなもんなんだなーって」

暮らして不満があったわけではない。二十三歳

生活

ファクス:092(711)6243
メール: bunika@nishinippon.co.jp